

にゅとぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



自泉会館にて開催の様子

ごあいさつ ～新年度を迎えて～

会長 桐原喜彦

■総会で引続き会長を仰せつかりました。皆さんの変わらぬご指導・ご支援を心からお願い申し上げます。

■協会の活動は創設後 27 年を経て随分変質してきたように思えます。これは会員の構成が変わってきたという方が適当かもしれません。

現在の活動は、外国の人びととの出会い、異文化とのふれあいに関する様々な事業。地域社会で暮らす外国人生活者への日本語サロン（市内 4 施設で 5 サロン開設）及びその指導者の養成講座（初級・上級）、イングリッシュオープンカフェ及び英語のクラブ活動。会員への情報提供、協会 PR の為の広報活動（「にゅとぴあ岸和田」の発刊、メーリングリスト。）に大別されます。これらの「親善協会ならではの・・・」という諸活動が定着し、何れも活発に実施されているのは、まさに会員各位の熱意そのものであり心から嬉しく思っています。

■私たちの身近でも最近外国人の働き手、留学生、国際結婚による居住者等々いわゆる外国人生活者が増えてきました。

日本は世界有数の老人大国で 65 歳を超える人口が 2014 年度、25% 台に突入し、深刻な若年労働力不足が報道されています。かねてから、この日本国を支えていくには最低 9 千万人以上の人口が必要だといわれてきました。（2014 年度は約 1 億 2730 万人で横這いで推移。）それが 2060 年代には 9 千万人を割り込むとさえ言われる推計があります。

高齢社会の進行と少子化のなかで今後、外国人が様々な分野で貴重な働き手として増大していくのは確実のようです。

■私たちの住む地域社会でも、外国人との接触の機会が増え、日常的に外国人との境目の無い社会になりつつあります。宮城県の『多文化共生社会の形成の推進に関する条例』の施行をはじめ多くの自治体でもこの問題に積極的に取り組むところが多くなってきました。

私たち国際親善協会は、引続き「多文化共生社会」への意識を高めながら、今後も様々な活動を継続・発展させたいと念じています。会員の皆さん、楽しみながら大いに活動にご参加下さるようお願いします。

総会・経過報告

今年度の事業指針を決定する総会が、5月9日（土）自泉会館で70名を超す参加者の中で開催されました。ご来賓の方々及び桐原会長のご挨拶に引き続き、《事務局》、《広報部会》、《事業部会》、《日本語サロン部会》の各部会より、2014年度事業報告、並びに2014年度決算・監査報告がありました。又、一部会則の改正も原案通り承認されました。

今年度は役員改選の年にあたり、総会で2015～2016年度の役員が満場一致で選出されました。（新役員名簿は次頁参照）その後、新年度の各部会長、副部長、事務局長、事務局員の指名があり、引き続き2015年度の事業計画案・予算案について承認されました。



議事終了後、カンガルー英語クラブ有志、カンガルーによるオカリナ演奏にあわせ、「浜辺の歌」を参加者が全員で合唱。そして Blessing Angeles によるゴスペルでは、「アメイジンググレイス」などうっとり魅了させてくれました。（広報部会）



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

第7回 関西バリ舞踊祭開催

6/6
(土)



会場には、たくさんの観客が集まりました。



関西バリ舞踊祭ちらし

今年もやってきました関西バリ舞踊祭。『契りの神』のご加護によるものか、梅雨の季節の晴れ間の6月6日(土)、岸城神社の境内にバリ舞踊家たちが舞う。

バリ島には数千の寺院があり、その寺院のお祭りには人々は正装して詣で、神々への捧げ物を行う。そして夜の儀式には村人が演じる舞踊とガムラン音楽の演奏が夜を徹して行われるという。7回目を迎える関西バリ舞踊祭、関西バリ舞踊実行委員会のもとに(在大阪インドネシア総領事館、岸城神社、岸和田市国際親善協会の三者共催)、今年は関西ばかりか東京、愛知、四国からもバリ舞踊愛好家が集い、インドネシア・バリ島の伝統舞踊を華やかに神に奉じました。

公演に先立ちバリのお祭りさながらに、出演者たちが蛸地藏商店街から賑やかにパレード(パレガンジュール)、岸城神社境内まで行進しました。神社の境内には、バリの雑貨や料理を提供する屋台や地元蛸地藏商店街による手作り市の出店もありバリ舞踊の会場にふさわしい雰囲気が…。

午後5時“歓迎の踊り”(ガボール)で開演、植民地時代のバリ駐在オランダ兵の姿をユーモラスに表現した男性仮面舞踊“オランダ兵の踊り”(ウイラ・ルパノ)の統一された動きが楽しく、会場を大変なごませました。

第1部終了後の休憩時間には、地元上町青年団によるだんじり囃子の演奏が、「ようこそ岸和田へ!」と、特に多くの市外、府外、近畿外からの観客を魅了。

また、今年は岸和田市の若い世代にもバリ舞踊の伝統をと、在大阪インドネシア総領事夫妻の希望により、総領事夫人が、市内平瀬バレエアートスタジオの生徒(小学校3・4年生)7名に、約2か月間熱心に指導された成果を披露する、特別なプログラムが用意されました。会場のみなさんに歓迎の心をこめて、演じる“ペンデット”(歓迎の踊り)が進行するところには、超満員の会場は最高の盛り上がりを見せました。

会場に照明が入って涼しい風が心地よく身体を包むころ、インドネシアの青年たち(日本語サロン生も多数)のグループが、舞踊衣装の出演者といっしょに記念写真に納まるのが微笑ましく感じられました。(井上 實)



地元の子供たちも舞踊出演

岸和田市国際親善協会
(2015年度～2016年度)役員

役職名	会員名
顧問	岸和田市長 信貴 芳則
	市議会議長 鳥居 宏次
	水田 博史
会長	信貴 信千代
	桐原 喜彦
副会長(会長代行)	井上 實
副会長	米川 典子
	塩屋 裕
会計	東田 和代
	西村 令子
監事	今本 美知代
	梶野 郁子
理事	井手 勤
	猪瀬 哲男
	緒方 理世
	奥野 藤樹
	栗尾 宣子
	澤田 直子
	重田 昭裕
	渋谷 幸子
	杉原 美鈴
	樽谷 弘子
	辻ノ 賢美
	服部 圭子
	藤平 敬子
	三森 すみ代
	村木 靖子
吉田 正博	
岸和田市医師会	
岸和田市歯科医師会	
岸和田市薬剤師会	
岸和田市体育協会	
岸和田市町会連合会	
岸和田市日本大韓民国親善協会	
岸和田市日本中国友好協会	
岸和田市文化協会	
岸和田市立産業高等学校	
岸和田市立小学校校長会	
岸和田市立中学校校長会	
岸和田商工会議所	
岸和田青年会議所	
岸和田文化事業協会	
岸和田中央ライオンズクラブ	
岸和田ロータリークラブ	
国際ソロプチミスト岸和田	
トーヨートラベル株式会社	
ヒッポファミリークラブ	



4/1
(水)

地球どんぶり お花見



「お城でのお花見」は、4月1日(水)午後7時より49名参加のもとに催されました。前半は日本的なものにも触れてもらおうと日本語サロン(職員会館)は俄習字と折り紙教室になりました。はじめて持つ太筆と細筆で「春」「桜」などの漢字と自分の名前を書いて前のボードにはって悦に入ったり、折り紙でちょっと高度だけど華やかな「桜」に挑戦したりして教室は熱気ムンムンでした。

後半は天守閣に上がり遠くは淡路島、神戸、関空を眺めました。そして東岸和田サロンの奥野氏による岸和田城の歴史や八陣の庭(昨年国の名勝に指定)の説明は易しい日本語でもらいました。陳列されている甲冑(3代藩主岡部長泰所用)の前で写真を撮る人も多くいました。少し水分の含んだ満開の夜桜の美しさを堪能しながら城内の庭園を散策しました。心配した小雨もやみ、風流で静かな花見でした。

市内5サロンより指導者、生徒が参加し、場所こそ違っても指導者のいつもの如く熱心に指導する姿に、生徒の「何でも見てみよう、やってみよう」にあらためて感動しました。盛りだくさんなことを1時間半で無事に楽しく終えることができました。

(職員会館水曜日サロン 堺 徳子)

第38回 市民フェスティバル

中央公園

5/3
(祝)

大型連休突入の五月晴れで、絶好のフェスティバル日和となりました。早朝より開場前から各団体、グループの設営や来場者受入準備が始まり、活気に満ち溢れていました。当協会でも負けじとばかり、倉庫からの各種資材の搬入やテント設営も短時間で終えることができました。

今年の目玉やはり「肉入りちぢみ」です。ライブル団体の不参加ということもあって、次々と焼き上げられていく「ちぢみ」のにおいに誘われて、スタッフが昼食時間も取れないくらい、待ちの列が絶えませんでした。そして今までの最短、午後1時15分に完売することができました。これも新記録・315食です。その後も購入希望者があとを絶ちませんでした。材料がなくなったため、早々と店じまいせざるを得ませんでした。これは「ちぢみ」焼きに没頭された女性スタッフ、「ちぢみのぼり」を高く掲げながら、声高らかに呼び込みをしたスタッフの献身的な努力の賜物です。

もうひとつの目玉、「割箸鉄砲」も大変な人気で、絶え間なく子どもたちに楽しんでもらうことができました。鉄砲作り材料を50組を用意していましたが、これも午前中に終了となりました。

今年も気になったのは、ゴミのマナーです。これはやはり大人が率先してマナーを守り、子どもたちに教えるべきものが、逆になっているように思えます。「ゴミは各自持ち帰ること、この最低限度のマナーを守ること、これは日常生活に於けるマナー意識感と直結することで、とても重要なことです。来年こそはマナーが改善されることを希望します。

ご協力いただきましたスタッフ16名(内中国人のサロン生2名)のみなさま、長時間ありがとうございました。(広報部会)



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ、世界のカルチャ、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとられず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

《程一彦さんの健康養生訓》

然るラジオトーク番組で、著名な料理研究家であり、ジャズ評論家である、程一彦さんと一緒にする機会がありました。「プロに尋ねるコーナー」という番組で、私の主たる業務は、外国人のための医療・教育・防災・国際交流分野における語学ボランティア活動という設定です。番組の最後に印象的なコメントをいただきました。「僕のようなお爺さんが、こうやって料理と音楽を楽しめるというのは、ホンマに幸せな人生ですな。あなたの場合は語学で皆さんのお役にたっているように、僕も同じように多くの方に料理と音楽を楽しんでもらうたらええなと思っています。僕もこのまま百歳まで頑張るので、あなたも百歳まで頑張ってください。」と逆に激励され、人生の先輩から多くのことを学ばせていただきました。

超多忙なスケジュールの中、毎年全国各地の小中学校で子どもたちに、「程さんの美味しい給食」を提供されているそうです。そしてアンケート調査によると、好きな料理、小学生は①カレー②ハンバーグ③からあげ、中学生は①カレー②寿司③ハンバーグ。これらの共通点は①やわらかくて噛むのが楽②甘味があることです。が、欠点は野菜不足です。

そこで、程一彦さんの「健康養生訓」を色紙にしたためていただきました。

一、朝まずコップ一杯の水を飲む
一、まず野菜を食べてから、肉、魚、ご飯の順で食べる

一、肉、魚の数倍の量の野菜を食べる

朝コップ一杯の水が便秘解消・腸内清掃となること、新鮮な野菜を食べることで赤血球を作り、サラサラした血液となり、元気の源を蓄えることができるということです。同時に食の入り口であるお口は常に清潔に、食後は必ず歯磨きを励行しましょう！食はなくてはならないものですが、毎日、健やかに過ごすためには、健康養生訓を実行しましょう！(塩屋 裕)



3/21
(土)

Belal Hossain さん
(バングラデシュ)

北海道と東北をあわせてぐらいの国土に約 1 億 6000 万人が暮らすバングラデシュ。人口密度世界一の首都ダッカから昨年 9 月来日した同国外務省職員のベラル・フセインさん (31 歳) は、この 5 月まで関西国際センターに滞在し日本語研修の特訓の日々。人なつっこい笑顔でバングラの歴史と現状をスライドを交えながらわかりやすく説明してくださいました。

バングラデシュには 2 度の独立の歴史があります。英領インドの一地域でしたが第 2 次大戦後、イスラム教のパキスタン (東西) として独立。しかし、母語のベンガル語使用を西パキスタン (ウルドゥー語) が認めなかったため激しい抵抗運動を経て 1971 年バングラデシュ (ベンガル人の国) として独立しました。その戦争で約 300 万人が死ぬという苦難の歴史があったんですね。

あまり馴染みのない国ですが、最近ではユニクロなどの商品タグに「made in Bangladesh」という文字をよく目にします。人口パワー、低コストを活かして今や中国に次ぐ「世界の縫製工場」となり、輸出加工区に GAP や H&M といったアパレルメーカーが

多数進出しています。

和泉市にある桃山学院大学の人類学の先生が現地調査でダッカに滞在しておられ、私事ですがそのお招きで今年 2 月、1 週間ほどダッカと農村地帯ジャマルプールを訪れました。ベンガル人のノーベル賞詩人・タゴールが「ショナル (黄金の) バングラ」と歌ったように、農村部ではみごとに水田が広がり、人々は愛らしく、旅人に“濃い”まなざしを向けてきます。対照的に首都では無秩序な交通混雑が毎日繰り返され、活気と混沌を感じます。走っているクルマの 9 割は日本からの中古車。そのほとんどがトヨタ車で「TOYOTA」だらけです。

フセインさんはバングラ人を「日本人と同じ simple (飾り気のない素朴な) 人たち」と表現し、「日本には非常に親しみを感じている。私は日本とバングラの架け橋になりたい」と強調されていました。
(里見 勉)



4/18
(土)

Beyshen Dairbekoy さん
(キルギス)

友達に声をかけてもらって、久しぶりに EOC に参加した。ゲストはキルギスの外交官の方。ん？キルギス？耳にはしているけれど ??? 確か、旧ソビエト連邦に属し、連邦崩壊に伴い独立した国ではなかったか ?? と。頼りない記憶が頭をよぎる。部屋に入ると、温厚そうな紳士が目に入った。本日のゲスト、Beyshen 氏だ。柔和な雰囲気や漂わせながら、映像とソフトな語り口で私たち参加者をキルギスの国に誘う。まずは、国旗について、赤地の真ん中に黄色の太陽、太陽を交差する 2 組の 3 本線は遊牧民族であるキルギス人の円形移動式住居、yurt (コルト) の天井の骨組みを表現しているそうだ。更に、太陽のまわりに描かれている 40 の炎 (?) は、彼の説明では有名な戦士ということだ。キルギス人のほとんどは名目上、イスラム教徒らしいが、実際は無宗教 (こ



の辺りは名目、仏教徒、実はほとんど無宗教の日本人となんと似ていることか! 思わず親近感を覚える) で、ヤギ、ヒツジ肉を好んで食し豚肉は食べない。でもこれは宗教上の理由からではなく単に嫌いだからという説明には思わず笑ってしまった。驚いたのは、馬を駆って行くコクボル。ポロに似た伝統的な騎馬競技だが、ヒツジの頭と足を切ってボールの代わりにすると言う!!! 20 kg 余りもあるヒツジを馬上から取り合い、更に攻撃をかわしながら相手のゴールへ駆け込んで点を競い合うのは熟練した馬術の技量のみならず、相当な知力、体力が必要と思われる。競技が終わった後のヒツジは柔らかく美味できちんと食に供される。国の紹介の後、Beyshen 氏を囲んで活発に質問が飛び交った。日本に來られて 8 か月、今回、国を紹介するにあたって、色々調べているうちに、無性に奥さんと 1 歳過ぎのお嬢ちゃんに会いたくなったり。父親の影響もあって日本が大好きな Beyshen さん。日本の武道にも関心をもたれている。お話を聞いてキルギスがとても身近に感じられるようになりました。
(中林 孝子)

5/16
(土)

Grace Lezondra さん
(フィリピン出身のアメリカ人)

岸和田市国際親善協会の総会の日、総会の 2 部でゴスペルに参加した Grace に是非 5 月のゲストをお願いしたいと言う事でした。Grace は教会の ESL 教師として来日していますから、その責任者である牧師先生の許可が必要でしたのに本人の OK だけで私が仲介役をスタートさせてしまった為、実はお連れできるかどうか、直前までハッキリしない状態でした。しかし神様はそんな経緯も憐れんで、彼女を最大限に用いてくださいました。

彼女が生まれ育ったフィリピンの文化と移住してから 25 年になるアメリカの文化そして不動産関係の会計士として 13 年働いていた様子のハイライトを紹介した後、質疑応答で場も和んだ頃、一週間前の総会で歌わせてもらったゴスペルが良かったから、もう一度という要請に、つい私も一緒になって Amazing Grace を披露してしまいました。休憩後、椅子を車座にして参加者が自己紹介

していったのですがそれをすぐ覚えてファーストネームで各参加者を意見交換に引き込んでいく様子は彼女のフランクな闊達な性格の故のことだと思いました。

5 月のゲストスピーカーとしてプレゼンしたことは、彼女の一年間の日本滞在をさらに豊かにしてくれた思い出となったと思います。当日ご参加された方々、できれば Keep in touch with her, please!
(内田 喜江)



編注 : ESL = English as a Second Language

■感嘆 マララさん

「一人の子供、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えられる」
パキスタンで生まれ育った15歳少女は「女子に教育は不要」との圧力に抗し勉強を続けるも凶弾に倒れ意識不明の重体に陥り英国での治療で奇跡的に回復する。

その半年後、マララは国連本部で冒頭のスピーチを行い、これが報道されるや世界を感動させ、一躍 暴力や偏見に屈せず子供の教育の権利を訴えるシンボルとなる。

その後、国際舞台で平和と教育の重要性を訴える活動が評価され「世界こども賞」「サハロフ賞」が授与され、そして昨年末に17歳の史上最年少でノーベル平和賞に輝く。

その受賞演説で「世界中の子供たちに無料で良質の教育を保障すべきだ」と強調する。

ユネスコの調査では2011年現在で初等教育を受けられない子供は5710万人以上で、その原因は社会の抑圧や紛争と貧困にある。

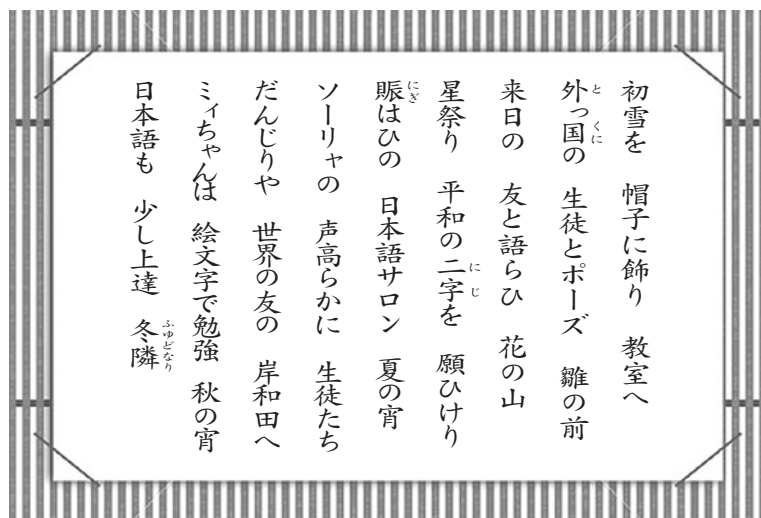
「教育無くして平和なし」とするマララの主張を待つまでもなく世界の紛争を解決し貧困層の底上げを図ることにより子供に教育を与えることは国連や国際社会の責務である。

わが国でも教育格差が顕在化しつつあり貧しい家庭の子供は学校外教育を受けられず、これが学歴格差となり雇用格差、所得格差に繋がる。

この格差サイクルが固定化され次世代にもスパイラル拡大化する。

同じスタートラインから同条件で走り始める「機会の平等」が大切で、競争の結果、成果に差が出る「結果の不平等」や競争原理はむしろ社会を活性化させる。

貧困家庭の学ぶ意欲のある子供に対しては手厚い生活支援、学習補助を行い実質的な機会の平等を図ることが先進国でのマララ流理念の生かし方ではないでしょうか。 (奥野 藤樹)



日本語指導者レベルアップ講座の開催

3/14 (土)

3月14日(土) マドカホールで日本語指導者レベルアップ講座を受講した。講師は神戸女学院大学の建石 始先生である。テーマは4つある。①私の自己紹介②個別指導の状況③日本語サロン運営の状況④個別指導・日本語サロン運営のより良いあり方。受講したみなさんは4グループに分かれ、意見を出し合って先生の質問に答えた。



みなさんの自己紹介から日本語を教える理由が分かった。少しでも他人の力になりたいと、共通の理由で日本語指導者になっている。個別指導の状況について学習者と接して楽しいことがあり、大変なこともある。楽しいことは学習者と話すこと、学習者の日本語が上達すること、異文化を体験できること等がある。困

ていることは学習者が毎回サロンに来ないこと、日本語がなかなか上達しないこと、仕事で疲れた顔をしていること。さらに、日本語サロン運営の状況において、遣り甲斐と大変さの両方があることが分かった。最後に個別指導・日本語サロン運営のより良いあり方において先生から提案があった。ちゃんと日本語を教えないといけないと思すぎないことも大切、学習者と長く付き合っていくには大切なポイント、上下関係ではなく、対等な関係を目指すことなど。

この講座中、日本語サロン指導者全員は真剣に話し合い、メモを取り、これからの日本語サロンで実行しようと考えている。私はみなさんの熱情に感心した。今は日本語指導者養成講座初級を修了した。一人前の指導者になるため、上級講座にもがんばって、通って行きたいと思っている。

(職員会館金曜日サロン生 丁 立浄)



岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かなifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話をいただいています。

第15回はインドネシア出身、春木在住の
アフマド・ジャミル・パシさん
(インドネシア)です。



Living in
岸和田

KISHIWADA
第15回



アフマド・ジャミル・パシさん

アフマドくんは昨年の7月に市内企業の研修生として来日しました。彼の故郷はインドネシア中部のスラウェシ島(植民地時代はセレベス島)。彼のおじいさんのおじいさん(高祖父)は日本人だそうです。アフマドくんの兄弟やご両親は日本語を話せませんが、おじいさんは日本語が話せるそうです。水曜日と金曜日の日本語サロンに通って日本語を勉強しています。仕事が忙しくてサロンに通える時間がない時は、会社の寮で好きな映画をパソコンで見ながら日本語を勉強しているそうです。好きな映画は「砂時計」という日本の映画です。趣味はモーターサイクル。好きなレーサーはバレンティノ・ロッシ。栃木県の茂木サーキットへ行くことも日本に来た理由の一つだそうです。金曜日サロンの金城先生とはこの趣味が偶然一緒で、運命の出逢いだ!と思ったそうです。今では時々レースの話をしたり、仕事の悩みを相談したり、日本のお母さんのように慕っています。

昨年の夏、日本に来た時は猛暑で軽装でした。季節が流れて冬を迎えるころには想像以上に寒くなり、どんなに寒くても気温は20度くらいインドネシアでは体験したことのない気候に苦労したそうです。少しでも暖をとろうと、短髪だった髪を伸ばしました(写真参照)。豚肉が食べられないので食事はすべて自炊。毎日お弁当も持参します。得意料理はカレー。インドネシア風の辛めのチキンカレーをよく作ります。好きな日本食はたこ焼き。先日、友達とたこ焼きパーティーもしたくらいです。自前のたこ焼き器も持って、もうすっかり大阪人ですね。



スラウェシ島 マナド

来日する前まで日本人はみんな着物を着て生活していると思っていたので、空港についてまずびっくりしたことはみんなが洋服をきていることだったそうです。日本に来た印象はとても平和で安全。そして自動販売機がたくさんあること。日本では夜、自転車で帰宅しても大丈夫。故郷では自動販売機は強盗に狙われるため空港などの限られた管理のできる場所にしか置かれていないので、このことから日本での安全な暮らしを実感しています。(取材:緒方 理世)



文化遺産 バウバウ要塞



スラウェシ島

Information 案内

■「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター」スタッフ募集

岸和田だんじり祭りにやってくる外国人のためのインフォメーションセンターのスタッフを募集します。

(と き) 9月19日(土)・20日(日)
10:00~13:00・13:00~16:00の区分
*通しでの参加大歓迎です。昼食が出ます
*お手伝いいただける方は事務局までお申し出ください

■English Open Café の開催

(と き) 9月以外の第3土曜日の13:30~
(ところ) マドカホール 3F 視聴覚室

申込なしでどなたでも参加できます。
進行は全て英語です。

■サウスサンフランシスコ市からのお客様の歓迎交流会

市の姉妹都市である米国サウスサンフランシスコ市から山手の岸和田だんじり祭りの見物に20名の方が岸和田を訪問されます。協会主催で下記のように歓迎交流会を計画しました。会員のみならずぜひご参加ください。

(と き) 10月10日(土)午後6時~8時
(ところ) がんこ 五風荘
(参加費) 3,000円(食事の一部)

にゅとびあ岸和田 No.104 編集担当

編集担当 緒方通世・奥野藤樹・塩屋裕・三森すみ代・米川典子
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694